

日本科学者会議

福井支部ニュース

第3号 2003年1月30日発行

- ** 日本科学者会議福井支部
- ** 〒910-8507 福井市文京3-9-1
- ** 福井大学 アドミッションセンタ 大久保貢研究室 気付 Tel 0776-27-8466
- ** ohkubo@kyomu1.fuee.fukui-u.ac.jp
- ** 郵便振替口座番号 00710-9-17967 日本科学者会議福井支部
- ** ホームページ <http://www.jsa.gr.jp/fukui/> (本部のページ <http://www.jsa.gr.jp/> からたどれます)

今号の内容

- ◎ 支部結成 30 周年記念講演会の概要 (3月8日開催予定)
- ◎ 支部事務局長全国会議での報告事項
- ◎ 北陸地区会議での報告事項
- ◎ 日本海シンポジウム (3月14, 15日開催予定)
- ◎ 北陸地区シンポジウム (4月19, 20日開催予定)
- ◎ 寄稿: 住んでみて感じたアメリカという国 その7-近所付き合い

福井支部結成30周年記念講演会のお知らせ

日本科学者会議 福井支部では支部結成 30 周年記念講演会を「真の学力とは」と題して下記の日程で開催します。

記

日時：平成 15 年 3 月 8 日 (土曜日) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分

会場：福井大学 アカデミーホール

- 1) 基調講演 寺岡 英男氏 (福井大学教育地域科学部 教授)
「学力論議と学びの改革」
- 2) 大学、高校、中学からの報告
大久保 貢 (福井大学) 「AO 入試と高大連携」
高校、中学の先生については交渉中です。

* 詳細は、来月の支部ニュースにてお知らせします。

多数の会員の参加をお願いします。

お願い：2002年度会費未納の会員は至急納入下さい (昨年度約1/2の会員が未納)

過去の会費未納の会員は、分納でも結構ですので、滞納一掃にご協力下さい。

支部事務局長全国会議 報告

～多様なアイデアから組織活性化へのヒントが～

支部事務局長全国会議（西日本地域）が、8月24日～25日に京都キャンパスプラザで開催されました。今年度の全国会議は「大学問題への取り組み」「支部活動について」「今後のJSAの活動」の3つの議題に絞って議論が行なわれました。

「大学問題への取り組み」では、国立大学の改組・独法化問題に対してJSAとして独法化反対でいくのか？独法化を良いものにしていく活動をしていくのか？などについて激しい意見が交わされました。「どのような設置形態であれ、良い大学をつくろうというのが基本であるから、改革の中で何とかして、それに近づけていく努力が重要である」という支部からの発言がありました。

「支部活動について」では、組織拡大のためには若手院生をターゲットにしてはどうかとの意見が多数出されました。また、ITをより活用して例会のPRをしてみてどうかとか、事務局長が狭い専門分野の枠にとらわれず、社会全体をみわたす多様なテーマの研究会を学生・院生と組織し、そのつながりを生かそうとしているとの発言があり、組織活性化へのヒントが次々に出されました。

「今後のJSAの活動について」では、分散会ごとにブレインストーミングを行い、それをKJ法により整理したものを全体会で発表しました。主に、若手の活性化について議論され、若手の入会なくしてはJSAの未来はない、とか21世紀こそJSAの出番だ！の発言がありました。また、各支部の悩みとして、点在会員の参加をどう呼びかけるか、など各支部の悩みや工夫が大変参考になり元気をもらったような気になりました。

最後に、ある若手の事務局長が「会員が多忙でロマンを無くしている。こちらが夢を持っていなければ、若手は入会してこないだろう。夢を語れるような人間になってほしい。」と発言し、いろいろと考えさせられた有益な事務局長全国会議でした。

北陸地区会議 報告

北陸地区会議が平成14年12月1日（日曜日）に金沢全日空ホテルロビーで開催されました。全国常任幹事会の報告、各支部の活動状況の報告と今年の北陸地区シンポジウムのテーマの3点について議論しました。参加者は福井支部か

ら高木全国常幹、大久保事務局長、石川支部から飯田事務局長、富山支部から横畑事務局長の4名でした。

まず、全国常任幹事会報告があり、その後、各支部の活動状況が報告されました。各支部とも大学法人化を前に会員が多忙で、例会の企画まで手がまわらない等の報告があり、どこの支部も同様な状況であることがわかりました。次に、本年4月に開催予定の北陸地区シンポジウムのテーマについて議論がなされました。当番支部である福井支部から「自然エネルギー」のテーマで開催したいとの提案が出され議論した結果、石川、富山両支部とも、このテーマで開催することが了承されました。

当日、ロビーにて結婚式が行なわれておりピアノ演奏を聴きながら、華やかな雰囲気の中で会議を終えることができました。毎月のJSAの会議を重苦しい大学の会議室で行なうのではなく、たまにはこのような華やかなところで会議を開いて議論するのも良いアイデアではないかと思った北陸地区会議でした。

★「日本海シンポジウム」についてのお知らせ

このシンポジウムは、日本科学者会議 日本海委員会の開催する全国規模のもので、島根支部の担当により開催され、テーマは「大学・研究者と地域との連携を探る ー法人化問題にどう対応するかー」です。また、日程は下記のとおりです。

記

日 時：平成15年3月14日（金）、15日（土）

会 場：島根大学

企画日程：第1日目

基調報告「国立大学の法人化問題について」

報告と討論（第1部）：「大学は法人化にどう対応しているか」
各支部・大学からの報告と討論

第2日目

報告と討論（第2部）：「大学・研究者と地域との連携を考える」
各支部・大学からの報告と討論

参加や発表を希望される方は、福井支部事務局まで

ご連絡下さい。

北陸地区シンポジウム「自然エネルギー」が開催されます

本年4月19, 20日に、福井支部担当で北陸地区シンポジウム（テーマ「自然エネルギー」）を開催します。詳細は来月の支部ニュースにてお知らせします。

寄稿

住んでみて感じたアメリカという国

その7ー近所付き合いー

永井 二郎

前回（その6）から気軽なテーマについて述べることにしました。今回は、「近所付き合い」について感じたことを記します。

偶然（というか運命？）により、私は今年一年間、住んでいる町内会（自治会）の会長を務めることになってしまいました。ようやく一ヶ月が過ぎましたが、今まで良く知らなかった地域の仕組みを知ることになりました。各家庭→自治会→第一段階の自治会連合会→第二段階の自治会連合会→福井市自治会連合会→・・・のような地域組織の多層構造を、今までは意識することは全くありませんでした。また、自治会内、第一・第二段階の自治会連合会内には、長い歴史（ドラマ・人間模様）が過去にあり、それらが地区の体育大会や夏祭り等のイベント開催方法に深く深く関与していることも知りました（何分、経験が乏しい人間ですので、こんな事も知らなかったのです・・・）。今後一年間、非常に多くのイベントが自治会主催で行われ、その中で多くの近所の方々とお付き合いをすることになるでしょう。

そこで、「そういえば、住んでいたバークレーはどうだったかな？」と思い返してみました。“町内会”というものを意識して生活しなかったので100%の自信は無いのですが、バークレーには“町内会”は存在しなかったと思います。ここでいう“町内会”とは、住所によって問答無用で加入することになる一種の地方行政組織のことです。細かな話になりますが、私は、Berkeley CityのBenvenue Ave.という通りに住んでいました。確かに、Benvenue Ave.沿いの近所の方とは、何人かと親しくなりましたし、軽い挨拶くらいは交わす仲になります。しかし、町内会費を集めたり、イベントを開催したり、何らかのトラブル発生時に市役所等と折衝する窓口となるような組織はありませんでした。トラブル発生時には、あくまでも個人個人が市役所等と交渉します。様々なイベントは、あくまでも同好会的（好きなもの同士が自発的に計画し開催するスタイル）です。つまり地域組織の構造を描くと、「各家庭→市」というシンプルなものだと思います。福井とバークレーのどちらが良いという訳ではなく、どちらにも長所・短所があるように感じますが、今年町内会長をしていると、「もう少し自治会組織構造がシンプルなものにならないか」と感じてしまいます。

また、他の国々（特にアジア各国）で“町内会”が存在するのかどうか、存在する場合は、どのような構造をしているのか、恐らくちゃんと調査・研究済みなのでしょうけど、個人的には大変関心があるところです。